

～宮城と山形をつなぐ じもとホールディングス～



司会・質問 平成24年10月、きらやか銀行と仙台銀行は、『じもとホールディングス』を設立し経営統合いたしました。統合までの道のりを振り返っていかがお感じですか。

三井会長 両行は、平成22年10月に、経営統合の検討開始を合意したものの、翌年3月の東日本大震災で仙台銀行を中心に甚大な被害を受けました。それでも両行は、あの惨事を懸命な努力と全国の温かい支援で乗り越えて、1年遅れではありますが無事に経営統合に至りました。ここまで本当に厳しい道のりでした。それだけに新金融グループの誕生はとても感慨深いものがあります。

栗野社長 大震災という大きな出来事があり、仙台銀行の皆さんは、お取引先のこと、銀行のこと、そしてご



家族のこと、本当に色々ご苦労されましたが、それを乗り越えていただいた。だからこそ、今回の経営統合に至ったのだと思っています。改めて仙台銀行の皆さんのご努力に、心から敬意を表したいと思います。

三井会長 ありがとうございます。震災の直後から、きらやか銀行の皆さんは、山形からワゴン車でたくさん支援物資を連日当行へ運んでくれました。当時、

仙台では何も手に入らなかったのが本当に有難かった。これが皆さんの心からの支援なのだと知って、嬉しさに涙がこぼれたことは今でも忘れていません。

震災では、仙台銀行と多くのお客さまが傷つきました。震災の影響で大幅な赤字決算になることも目に見えていました。栗野頭取はなかなか言いにくいだろうなと思い、数週間後に「どうですか、経営統合の準備を続けますか」とお聞きしました。すると即座に栗野頭取は「継続します」と答えて頂いたわけです。私は、きらやか銀行が統合継続の判断をされた時から、両行の本当の絆は強まったのだと思っています。



栗野社長 統合後、昨年10月から11月にかけて、私は、宮城県内の仙台銀行の全営業店を訪問しました。どこでも皆さんには本当に温かく迎えてもらい、実に嬉しい思いでいっぱいでした。

訪問して感じましたが、三井会長が言われるとおり、あの震災が両行の絆をより強めたことは間違いのないと思います。改めて一緒になってよかったな、そう思いました。

一方で、宮城と山形の両県に跨る新しい金融グループを創り上げたわけですから、それを成功させなければならぬという緊張感もあります。船出にあたり改めて気を引き締めた次第です。

司会・質問 持株会社の社名を「じもとホールディングス」とした理由、新金融グループの経営方針をお聞かせください。

三井会長 宮城県と山形県は、以前から同一経済圏として協力発展していくことが期待されてきました。震災後は、復興に向けて両県の絆を多面的に深めていくことが求められています。こうした大きな変化のなかで、じもとホールディングスが誕生したわけです。

この会社名には、地元である宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぎ、震災復興そして地域経済活性化に全力で取り組むという私たちの固い決意が込められています。

「じもと」という会社名は覚えやすいですね。地域の皆さんには好意的かつ大きな期待を持って受け入れられています。その期待に応えるため、しっかりとした統合効果を出すことが私たちグループの最大の使命と考えています。

栗野社長 じもとホールディングスの経営方針、その基本的な考え方は、じもとホールディングスしか持っていない特色を打ち出すことです。他行にない特色、これは何かというと、宮城と山形両県に広がる広大なマーケットです。豊富な情報源です。これはじもとホールディングスだけが持っている強みです。この強みをグループで徹底的に強くしていく。

この強みと知恵を使って、お客さまから喜んでいただける金融サービスを創造していく。これがグループの成長ストーリーだと考えています。

じもとホールディングスの経営理念は、「人・

情報・産業」をつなぐですが、まさしくこれを実現させていきます。そのためには仕組みもきちんと作って、行員一人ひとりが自覚をもって行動できるレベルにまでしっかり定着させていきたいと思っています。

司会・質問 じもとホールディングスは震災復興支援を第一の戦略に掲げていますが、この取り組みについてお聞かせください。

栗野社長 大震災の発生から2度目の冬を迎え、私自身も被災地の状況を見てまいりましたが、まだまだ道のりは長く、厳しいものがあると感じざるを得ません。このような状況下、震災に係わる資金需要に積極的にお応えするべく、きらやか銀行は、震災特例としての公的資金を100億円活用させていただきました。仙台銀行を含めるとグループ全体としては600億円の資本参加を受けており、まさに復興支援体制が整ったこととなります。震災復興に関して言えば、じもとホールディングスには被災地の金融グループとして独自の役割、私どもでないとできない役割があると認識しています。

例えば、両行の情報をつなぐことで宮城と山形の間で商流の形成に取り組むこと。両行独自のノウハウを融合・活用することで、産業再生と活性化に貢献していくこと。単独では対応できない大型の復興案件などに両行が協調して対応していくこと、などです。両行が一緒に行動することで、さらに復興に貢献できると考えています。



じもと HOLDINGS





チングが成約したお客さまからは「じもとホールディングスって、こんなサービスも提供してくれるんだね」と大変喜んでもらっています。小さくてもいいから実績を数多く積み重ねる。お客さまの喜びが増え、それが県境を超えた宮城と山形の新たな商流形成を促し、地元経済活性化の実現につながると考えています。

三井会長 沿岸被災地では、水産加工場などの再建が一部で進んでいますが、これから重要になるのは販路の回復だと思います。

宮城の水産品が並んでいたスーパーの販売棚は、震災後、北海道や北陸の商品が並ぶようになってしまった。そうした状態から再び宮城の被災業者が販路を回復するのは、容易ではありません。

ですから、じもとホールディングスとしては、山形で「みやぎ復興感謝祭海の市in山形」を開催するなど、これからも被災企業の販路回復をしっかり応援していきたいと考えています。

司会・質問 宮城と山形は「仙山圏」の言葉のとおり、県境を超えて経済一体性が益々高まってきています。今後の広域経済の発展にどのように貢献していくお考えですか。

栗野社長 例えば、きらやか銀行は本業支援や事業再生、仙台銀行は農業支援や個人ローンなどに強みを有している。それらのノウハウをグループで共有し、お客さまへの提案メニューを充実させていき、両行に配置した情報コーディネーターが両行の取引先ニーズを整理・マッチングさせていきます。

実際に、両行の紹介で宮城・山形の間でビジネスマッ

三井会長 そのためにも、まずは互いに宮城と山形のことをもっともっと知ることが大切ですね。

じもとホールディングスでは、グループ発足後、合同支店長会議を開催していますが、こうした交流を通じて、宮城のこと、山形のこと、今まで知らなかったことがたくさん発見できている。グループ全員がきめ細やかに動けば、膨大な情報を発掘することが出来ます。

栗野社長 それに宮城と山形を結ぶ新商品や金融サービスも開発していきたいですね。両県に跨る楽しい商品です。例えば、今回のじもとホールディングス設立時の「じもと・じまんキャンペーン」は、お取引成約者様に両県の特産品や温泉旅館宿泊券をプレゼントする企画でしたが、これは「じもと」の特色が出てお客さまからもたいへん好評でした。

色々なアイデアを出すことで、お客さまに喜んでいただける商品企画はさらに広がると思います。

司会・質問 規模の拡大に伴い、グループとして経営効率化にどのように取り組むのかお聞かせください。

三井会長 金融機関でもっともコストがかさむのはシステム関連費用です。仙台銀行は平成25年5月、きらやか銀行は平成27年5月に、NTTデータのステラ

ひろがる つながる



- 両行間の振込手数料・ATM手数料の優遇
- 「じもと」を応援する商品の提供、イベントの開催
- お客様同士をつなぐビジネスマッチングの実施



(平成24年12月末現在)

キューブへ基幹システムを移行します。両行が同一システムを採用することで、通帳や伝票、事務処理ルールの統一化を図ることができます。

併せて、じもとホールディングスとして両行本部機能の高度化と集約化も進めていきます。この効率化で生まれた経営資源の余力を、復興支援や経済発展支援へ再配分し、**営業力を強化していきたい**と考えています。

栗野社長 両行合わせて600億円の公的資金を活用して積極的な震災復興に向かっていく。併せて、三井会長が言われるように経営効率化を通じて、2つの銀行の収益基盤を盤石なものにしていく。それによって安定配当を実現し、将来の公的資金返済への道筋も付けなければなりません。

そのためにまず必要なのは、両行のコミュニケーションです。「**日ごろから、どんな些細な事でもいいから連絡しあう。きちんと話をする。そして互いに切磋琢磨していく。**」そうすれば、グループとしての情報力と提案力、解決力がさらに高まると考えています。

司会・質問 最後に、じもとホールディングスが目指す将来の姿をお聞かせください。

三井会長 震災復興とともに、東北地方は、自動車産業をはじめ、環境エネルギー産業など各産業が集積し、新たな発展の可能性が増しています。

私たち金融グループの経営理念は、「じもとホールディ

ングス」の名称そのものに端的に表れています。**私達が目指すことは、じもと経済の復興と発展を支える(ホールドする)ことです。**

震災という大きな障害を乗り越えて誕生したじもとの金融グループです。皆さんの期待にしっかり応えることができるよう、役職員の力を発揮してお客さまに貢献してまいりたいと考えております。

栗野社長 私は、仙台銀行ときらやか銀行の経営統合が、地域社会・お客さま・株主の皆さま・そして行員から「成功したね」と言われる経営を行っていきます。

どのような状態になると「成功した」という状態になるのでしょうか。例えば、法人のお客さまへは宮城・山形の両県のマーケットをつないでお客さまのニーズへ対応した件数を増加させる。個人のお客さまへは両県に跨る楽しい商品の提供、そしてチャンネルを充実してお客さまと触れ合う回数を増やす。

このような成功基準を一つひとつ明確に持ちながら、**全役職員のチームワーク**で達成をしていきたいと思っています。

3年後のじもとホールディングスには是非ご期待ください。

司会 本日はありがとうございました。じもとホールディングスのご活躍を心から期待しております。



HUMAN PROFILE

栗野 学

(MANABU AWANO)

- 株式会社 じもとホールディングス 社長
- 株式会社 きらやか銀行 頭取
- 昭和54年 きらやか銀行の前身の一つ・旧山形相互銀行に入行
- 座右の銘は、「There is always another way.」、いつも違うやり方がある。

きらやか銀行 概要 (平成24年9月30日現在)

- 本店所在地 山形県山形市旅籠町三丁目2番3号
- 電話 番号 023-631-0001 (代表)
- 設立年月日 平成19年5月7日
- 資 本 金 177億円
- 預 金 残 高 12,571億円 (譲渡性預金を除く)
- 貸出金残高 9,206億円
- 従 業 員 数 956名
- 店 舗 数 117カ店 (県内99カ店、県外18カ店) (注) ブランチ・イン・ブランチ (店舗内店舗) 形式での店舗統合による実質店舗数は80カ店 (県内63カ店、県外17カ店)、インターネット支店を除く。
- ホームページ <http://www.kiriyaka.co.jp/>

HUMAN PROFILE

三井 精一

(SEIICHI MITSUI)

- 株式会社 じもとホールディングス 会長
- 株式会社 仙台銀行 頭取
- 昭和41年 仙台銀行の前身・旧振興相互銀行に入行
- モットー：自分の名前から「精一杯頑張る」こと。



仙台銀行 概要 (平成24年9月30日現在)

- 本店所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
- 電話 番号 022-225-8241 (代表)
- 設立年月日 昭和26年7月5日
- 資 本 金 224億85百万円
- 預 金 残 高 8,347億円 (譲渡性預金を除く)
- 貸出金残高 5,306億円
- 従 業 員 数 761名
- 店 舗 数 72カ店 (注) ブランチ・イン・ブランチ (店舗内店舗) 形式での店舗統合による実質店舗数は61カ店。
- ホームページ <http://www.sendaibank.co.jp/>